

国宝建造物と青井阿蘇神社

元・東芝ガラス株式会社 社長

黒川 高明

硝子事業に携わって56年経過しました。その間技術の発展は目覚ましいものがありました。さらに将来に向けて開発の速度は加速されることが期待されます。日夜開発に努力されている皆さんに少々息抜きになるようなことを記させていただきます。

現役退任後、在職中かかわりのあった中世欧州のガラス技術・製造の歴史ライフワークとして調べています。その結果をまとめ2000年に「ヴァルトグラス」、2005年に「ガラスの技術史」、2007年に「ガラスの文明史」を上梓しました。

今心がけていることの一つに、国宝建造物巡りがあります。今回はこの国宝建造物についてご紹介します。

若い頃から好んで神社・仏閣巡りをしています。二十数年ほど前から折に触れ家内と全国の国宝建造物を訪ねようと努めています。現役を退いた年にJTBの雑誌『旅』の1995年9月号の特集「旅の達人100人」に選ばれ、「夫婦でじっくり見て歩く国宝建造物」と題し紹介されました。

その時はあと五年で全ての国宝を訪ねることができるかと記しましたが、結局十数年をついやし一昨年暮に214ある国宝すべてを訪ねることができました。最後の訪問先は2008年に国宝に指定された熊本県人吉市にある青井阿蘇神社でした。しかし修理中のものや公開日が合わず拝観出来なかったもの、また再度詳しく拝観したいところなどあって、当分国宝巡り続けます。

国宝建造物とは、意匠的・技術的に優秀なもの、歴史的・学術的に価値が高いもの、流派的又は地方的特色において顕著のものを重要文化財と指定し、そのうちきわめて優秀でかつ文化的意義の特に深いものを国宝に指定しています。

国宝建造物の指定は、明治時代から行われ、戦後全面的な見直しが行われました。戦前の旧国宝は全て重要文化財とし、その中から上記の観点で新たに国宝を選定しました。昭和26年から行われ、第1回目の昭和26年の選定では東照宮・法隆寺・姫路城など37件が国宝に指定されました。その後年々審査が行われ、平成21年3月1日現在、重要文化財建造物は2,344件4,272棟、うち国宝建造物は214件262棟になっています。

国宝の建造物の分類

全国で214ある国宝建造物を分類すると、寺院が154件、神社36件、城郭8件、住宅他15件です。なお国宝の城は、松本城、犬山城、彦根城、姫路城の4城ですが、姫路城には5件あります。

これらを、最も古い飛鳥時代の法隆寺金堂・五重塔から最も新しい幕末の大浦天主堂までの国宝を建造年代別に示します。

建立時代別国宝建造物

時代	年代	件数	時代	年代	件数
飛鳥	-710	6	南北朝	1333-1392	12
奈良	710-794	19	室町	1392-1573	23
平安	794-1192	21	安土・桃山	1573-1615	32
鎌倉	1192-1333	65	江戸	1615-1867	35

奈良時代までの国宝は全て奈良県の寺院（法隆寺・東大寺・唐招提寺など）です。

平安時代も末期（1100年以降）になってはじめて地方の寺院が現れます。兵庫県鶴林寺・一乗寺・鳥取県三仏寺・岩手県中尊寺・高知県豊楽寺・福島県願成寺・大分県富貴寺等です。

鎌倉時代に入り、武士階級の台頭と宗教活動化により全国的に神社仏閣が多く造られました。特に宋からの技術導入により建築様式が大きく変化し、以後の南北朝・室町時代の建築に多大な影響を与えました。

安土桃山時代には華麗豪壮な社寺や城郭が造られ、江戸時代にはこの様式を受け継いだ東照宮の造営や、戦国時代に焼失した京都奈良の寺院の復興が盛んに行われました。

国宝建造物の存在地を道府県別に見ますと、上の条件から古い都の奈良・京都・滋賀に集中しています。奈良県64件、京都府48件、滋賀件22件、兵庫県11件でこの4府県で全国の68%を占めます。その他比較的多い県は、和歌山県と広島県7件、栃木県の6件、大阪府と長野県の5件です。一方国宝建造物の無い所は、北海道、青森、秋田、茨城、群馬、埼玉、

千葉、新潟、石川、静岡、三重、徳島、福岡、佐賀、鹿児島、宮崎、沖縄の17道県です。

都道府県別国宝件数

北海道	0	東京	1	滋賀	22	香川	2
青森	0	神奈川	1	京都	48	愛媛	3
岩手	1	新潟	0	大阪	5	高知	1
宮城	3	富山	1	兵庫	11	福岡	0
秋田	0	石川	0	奈良	64	佐賀	0
山形	1	福井	2	和歌山	7	長崎	3
福島	1	山梨	2	鳥取	1	熊本	1
茨城	0	長野	5	島根	2	大分	2
栃木	6	岐阜	3	岡山	2	宮崎	0
群馬	0	静岡	0	広島	7	鹿児島	0
埼玉	0	愛知	3	山口	3	沖縄	0
千葉	0	三重	0	徳島	0	合計	214

国宝建造物の紹介

214の国宝建造物を紙面の関係で全て紹介出来ませんので、あまり人が訪ねない、または訪ね難い建物を選び紹介します。

東北地方 願成寺白水阿弥陀堂



福島県東南端のいわき市にある願成寺は、阿弥陀信仰が盛んになった平安末期に建てられた古い寺院です。中尊寺の金色堂を模した阿弥陀堂の両側には、広大な浄土式庭園が最近の発掘調査により復元されました。

阿弥陀堂は、宝形造り^{とちぶき}栩葺の屋根のせ、一間四面堂で、正面三間と両側面前端間および背面中央間を扉口、その他の柱間を板壁にして、最も標準的な阿弥陀堂の平面になっています。

中部地方 永保寺観音堂



岐阜県多治見市にある永保寺は、土岐氏の寄進により鎌倉時代に夢窓疎石のために建てられました。疎石は自然の岩石を立石とし、心字池を中心に作庭され、我が国の禅林風庭園の典型となっています。

彼の手がけた名園は、今日でも日本各地でその造園技術の粋を伝えています。特に有名なのが京都の西芳寺の庭苔におおわれた庭園です。

中国地方 三仏寺奥院（投入堂）



鳥取の三徳山に建てられた三仏寺の奥の院は、岩窟に投入れたと称されるほど瀟洒な小建築です。急斜面の岩盤から懸造りで建つ檜皮葺の流造で、長い柱が直接崖の岩に立つ見事な堂です。最も古い神社建築です。

四国地方 豊楽寺薬師堂



豊楽寺は、四国山地を流れる吉野川がつくった深い溪谷北岸の大田山上に、南面して建つ寺です。薬師堂は四国で最も古い建造物で、入母屋造^{こけらぶき}柿葺の屋根はゆるやかで反りも美しい寺です。

九州地方 青井阿蘇神社



一昨年国宝指定をうけた青井阿蘇神社は、鎌倉時代初期から明治維新までの約700年間相良氏の一元的な支配と保護を受け荘厳を極めてきました。

境内のほぼ中央部に北側から南側に一直線に配置された本殿・廊・幣殿・拝殿・楼門の一連の社殿は、慶長年間に造営されました。社殿すべてが黒を基調に漆塗り、細部の木組みに赤漆を塗り、彫刻や模様は極彩色を用いるとともに各所に装飾が施され一般に桃山様式と呼ばれる技法で建てられています。

一番の特徴は屋根の棟が高く勾配が急な萱葺き^{かやぶき}屋根です。人吉球磨地方にはこのような歴史

的建築物が数多く残されています。

小生が特に興味を引く点は、相良家が小藩ながら鎌倉時代から延々と明治まで続いた稀有な大名家であることです。小生が勤めていた大井川河口の主工場の近くに相良町があります。不思議なことに相良町には相良を名乗る家は一軒ありません。

相良一族は治承四年（1180）の富士川の戦いでは平家側に属し、その後源氏に服しました。頼朝は勢力確立後、建久四年（1192）に相良頼景に相良一族を引き連れ肥後人吉の移転を命じました。元久二年（1202）に頼景の長男長頼が地頭に任命されました。以後明治維新まで約700年間にわたって球磨地方を治めました。一時は、勢力範囲を八代、芦北、宮崎県の一部や鹿児島県北部にまで伸ばしたこともあります。江戸時代に入ってから、人吉・球磨一帯と宮崎県の一部（米良・椎葉）を領地とし、明治維新を迎えました。

この間、内部の抗争は結構多かったものの自壊することもなく、また、地形的要因にも支えられて外部からの大きな侵略を許すこともなく存続しました。しかし最も重要なことは中央の



政権の動きをよく把握し対処したことです。南北朝時代、戦国時代、秀吉の九州征伐、関ヶ原の戦いと大きな転換期にすべてうまく権力者側に付いたことです。先年工場在任中に人吉市と相良氏の歴史を調べた折、その原因は情報収集力にあることが分かりました。

現在の人吉・球磨の文化に特有のものがあるのも、それはこの約700年にわたる相良氏の治政によるものが大きいと思われます。

なお国宝建造物にご興味のある方は写真を中心に纏めている家内が作成したHPをご覧ください。<http://www.5f.biglobe.ne.jp/~housi>